

会 議 録

1 会議名

令和元年度 第4回和田区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

- (1) 公の施設の使用料改定について（公開）
- (2) 今後の「公の施設の再配置計画」の取組について（公開）
- (3) 地域協議会会長会議の報告について（公開）
- (4) 自主的審議事項 雪を生かした地域づくりの推進について（公開）
- (5) 自主的審議事項 住民組織の充実と地域活性化について（公開）

3 開催日時

令和元年11月7日（木） 午後6時30分から午後7時40分まで

4 開催場所

ラーバンセンター 第1研修室

5 傍聴人の数

1人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

- ・ 委 員：水澤俊彦（会長）、橋本 勲（副会長）、秋山澄子、泉 幸雄、
岩澤 弘、植木泰行、笠原完治、高橋善昭、土屋史郎、前川正治
- ・ 農村振興課：廣田副課長、関主事
- ・ 行政改革推進課：大瀧課長、内山主事
- ・ 事務局：南部まちづくりセンター 堀川センター長、佐藤係長、小林主任

8 発言の内容

【佐藤係長】

- ・ 有坂委員、市橋委員、小林委員、平原委員を除く10人の出席があり、上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

- ・同条例第8条第1項の規定により、議長は水澤会長が務めることを報告

【水澤会長】

- ・会議の開会を宣言
- ・会議録の確認：岩澤委員に依頼

次第2「議題等の確認」について、事務局に説明を求める。

【堀川センター長】

資料に基づき説明。

—公の施設の使用料改定について—

【水澤会長】

次第3報告（1）「公の施設の使用料改定について」に入る。

農村振興課に説明を求める。

【廣田副課長】

資料No.1に基づき説明。

【水澤会長】

農村振興課の説明について質疑を求める。

ラーバンセンター第1研修室の窓は、暗幕が付いていない。以前から管理人にも要望を出しているが、未だに付いていない。使用料が廉価で利用しやすいこの研修室を何度か借りたが、日中使う時は暗幕が付いていないのでプロジェクターが使えない。今どきそんな研修室があるのかと思う。市民プラザや高田公園オーレンプラザを使用したことがあるが、そこはきちんと整備されている。同じラーバンセンター2階の第4研修室も暗くなるように整備されている。使用料を上げるのであれば、研修室としてきちんと同等の設備を整備して、もしできないのであれば、むしろ、使用料を逆に下げるくらいにして上げることはないと思う。これは要望である。

【廣田副課長】

農村振興課では、ラーバンセンターのほか、ファームセンターや農業研修センター芙蓉荘などの類似施設を所管している。こういった施設も老朽化が進んでおり、

大規模な修繕が必要になる。今ほど会長から要望をいただいた件については、計画的に対応できるように努力していきたい。

【水澤会長】

料金改定と同時期までに、改善されていることを期待している。

【高橋委員】

会長と同じような話になるが、ラーバンセンターの体育館にファンヒーターが2台あると思うが、そのうちの1台がずっと壊れた状態になっている。この施設を管理している方に聞くと、なかなか直してくれないんだよねと話していた。

【廣田副課長】

そちらについても、先ほどのとおり、計画性、優先順位を見た中で要望に応えられるように努力したい。

【前川委員】

消費増税に伴って、今回使用料が値上げされるのか。また、今後、施設の管理運営に当たり、今ある施設をそのまま維持できるのか。それとも将来的に民間に管理を依頼するのか。そういう施設があるのか。

【大瀧課長】

使用料の改定について、当課が取りまとめているので私からお答えしたい。

最初の消費税率の引上げに伴って今回使用料を値上げするのかという質問について、修繕料が高くなったり、施設を維持管理するための人件費が掛かったり、そのような諸々の経費に応じて、利用者負担を適正な状態にするための定期改定が主である。定期改定は平成30年度に実施を検討していたが、今年、消費税率の引上げが予定されていたので、タイミングを合わせて改定するもの。定期改定後に、短時間で消費税率引上げによる改定をすると、利用者に不便をかけることになり、料金表や印刷物の修正等で経費が別途掛かることになるので、費用対効果を考えて定期改定を行う。

2つ目の将来的にどのような管理形態を想定しているのかの質問については、その施設が必要かどうか、他に代替施設はないのかといった広い視点で検討し、市の直接管理や民間に管理を委ねるといった手法を判断する。指定管理者制度や業務委

託という形で民間のノウハウを生かして管理をしてもらっている施設もある。管理手法には様々な形態があるが、施設が設置された背景や目的、利用実態をよく見ながら、最適な経営管理の手法と管理してもらえる相手方について検討していきたい。

【水澤会長】

他に質疑を求めるがなし。

—今後の「公の施設の再配置計画」の取組について—

【水澤会長】

次第3報告（2）「今後の『公の施設の再配置計画』の取組について」に入る。

行政改革推進課に説明を求める。

【大瀧課長】

資料No.2-1、2-2、2-3に基づき説明。

【水澤会長】

行政改革推進課の説明について質疑を求める。

【泉委員】

和田区は公共施設が少ない。以前、市から行政改革の件で説明があったが、旧町村には、それぞれ単独で持っていた施設があるため多いと思う。そういう意味からすれば、集約することは大変困難な状況だと思っている。その点について、地域住民の皆さんと十分に話し合い、地域の声を反映して、行政主導ではなく地域の皆さんから納得いただくように進めていただきたい。特に私たちが心配しているのは、少子化を含めた学校の問題が一番大きい。資料の中にもあるように他地区との統合という話もないわけではないが、私たちにとって学校というのは、地域のシンボルであり、子どもたちは宝だという認識を持っている。その辺も含め、慎重な検討をしていただきたいし、納得できるような計画にしてもらいたいと思っている。他の市町村では、町の中に学校が1つしかない、地元子どもがいなくなってしまうといった大変悲しい状況が出てきている。和田区の場合は、人口のデータを見ても微増であり減ってはいない。今後も増えていく要素がないわけではないので、その辺

も含めて、この地域の課題について事前に説明していただき、地域の皆さんから納得してもらえるような方向で進めていただきたいと思います。

【大瀧課長】

市も住民の皆さんと共にこの町をよくしていきたいという方向性は全く一緒である。住民だけでなく、関係者、施設利用者の意見も聞いて計画を策定していきたい。春に行政改革の取組について、町内会を含めて回った時は、現状をつまびらかにし、住民の皆さんと共有することによって、現状を変えるためにはどうしたらよいか。また、この現状を維持するためにどうしたらよいかという視点で、同じ方向性を向いて話し合うことができた。住民の皆さんには、将来に向けて賢明な方が多いという実感を持つこともできた。

学校が地域のシンボルであるということは、あらゆる場所で同様の話を聞く。学校は義務教育施設であり、子どもの教育環境を整える点で、ラーバンセンターのような一般利用する公共施設とは、少し性質が違う面もある。まず、子どもの教育環境をよくするという観点で、保護者も含めてよく話し合いたい。そして、地域のシンボルという言葉にもあるように、地域活動の拠点というのも学校の役割の中にあると思っている。子どもの教育環境の整備と地域活動の場という両方の視点で、丁寧に説明し、協議を進めていきたい。

【水澤会長】

他に質疑を求めるがなし。

—地域協議会会長会議の報告について—

【水澤会長】

次第3報告(3)「地域協議会会長会議の報告について」に入る。

11月6日(水)に地域協議会会長会議が開催され、橋本副会長が私の代理として出席した。橋本副会長に会議の内容等について説明を求める。

【橋本副会長】

昨日、直江津学びの交流館を会場に開催され、28区の会長が集まり、配布され

た資料に沿って説明を受けた。まず連絡事項の説明があり、その後に意見交換が行われた。

連絡事項では、最初に地域協議会の委員改選について説明を受けた。当和田区の次回の委員定数は14人で、今期と同数の予定である。全市的な改選後の委員定数は382人となっている。現委員の任期は、令和2年4月28日であり、4月29日から令和6年4月28日までの4年間で新たな委員の任期となっている。スケジュールについては、来年2月上旬に公募があって、公募期間が3月上旬から下旬までとなっている。その期間中に活動報告会を行うことになる。

次に令和2年度の地域活動支援事業の概要について説明を受けた。総事業費の予算は、前年度と同じ1億8,000万円。それを人口割、均等割で配分されることになっている。ただし、これは来年度予算が議決し、確定した段階で正式なものになる。地域活動支援事業の概要については、今までどおりであり、考え方や方針等については、それぞれの地域協議会に任せることになると思っている。

次に、町内会宛て事務文書の配布見直しに係る地域協議会だよりの取扱いについて説明を受けた。町内会への配布物の中に各地域協議会が作成している地域協議会だよりのあるが、これについては、来年から全戸配布ではなく、基本的には班回覧に変更してほしいというお願いがあった。この件は、いくつかの区の会長から、それでは困るという意見があった。

連絡事項の説明が終わった後、2つのグループに分かれて、テーマに基づき意見交換を実施した。私のグループでは、「地域との意見交換等を通じて把握した地域課題の自主的審議へのつなげ方について」をテーマに意見交換が行われた。私からは、和田区で議論してきた自主的審議事項「雪を生かした地域づくりの推進について」の取組を説明した。

その他に会議の資料は、当日配布でなく事前配布に改めるよう要望が寄せられた。

【堀川センター長】

補足する。町内会宛て文書の配布の見直しに係る地域協議会だよりの取扱いについて、市は各町内会長協議会から寄せられた意見を踏まえ、地域協議会だよりを全

戸配布から班回覧に変更したいとして、発行する各地域協議会で配布方法を協議してもらいたいという願いがあった。基本的には全戸配布をやめて班回覧にしてほしいが、地域協議会で協議した結果、班回覧でなく、引き続き全戸配布にしたいと決定した場合には、地域協議会が各町内会長協議会と協議してもらいたいという説明もあった。この件は、来月の会議で地域協議会だよりの配布方法を協議してもらいたいと考えている。

もう1点は、市では地域協議会の見直しを検討している。それに伴い、現在の地域協議会委員を対象にしたアンケートを今後実施したいと考えている。そのアンケート結果を基に、来年度から地域協議会の在り方について再検討したいということである。実際の変更は、令和6年度の地域協議会から適用していくという説明があった。

【水澤会長】

会長会議の報告について質疑を求めるがなし。

—自主的審議事項 雪を生かした地域づくりの推進について—

【水澤会長】

次第4議題（1）「自主的審議事項 雪を生かした地域づくりの推進について」に入る。

前回の会議では、自主的審議事項の課題解決に向けた取組や、これまでの審議経過等を振り返り、今後の方向性・進め方について各委員から意見を出していただいた。

正副会長では、その意見を基に資料No.3の今後の方向性・進め方の案を作成した。本日は、その案をもとに、今後の方向性を協議したいと思う。

まず、「雪を生かした地域づくりの推進」について、今後の方向性・進め方（案）として「地域協議会において、関係する委員等から、雪イベント実行委員会の動きを報告してもらい、雪イベントの進捗状況を確認する。」。そして「イベント終了後、その効果を確認した上で、次年度もイベントを継続するか検討する。」と整理した。

この案について、委員に意見等を求めるがなし。

意見等がないので、資料No.3の案のとおりに進めることでよいかを諮り、委員全員の了承を得る。

—自主的審議事項 住民組織の充実と地域活性化について—

【水澤会長】

次第4議題(2)「自主的審議事項 住民組織の充実と地域活性化について」に入る。

議題(1)に引き続き、今後の方向性・進め方について協議したいと思う。

資料No.3のとおり、この件の今後の方向性・進め方(案)については、「当初考えた各種団体との意見交換(懇談会)は実施しない。」。そして「雪イベント終了後に、各種団体との連携強化やリーダーの育成について協議する。」と整理した。

この案について、委員に意見等を求めるがなし。

意見等がないので、資料No.3の案のとおりに進めることでよいかを諮り、委員全員の了承を得る。

—事務連絡—

【水澤会長】

「事務連絡」について、事務局に説明を求める。

【堀川センター長】

今回の会議の日程だが、来年度に向けた地域活動支援事業の審査採択のルールを検討を予定していることから、12月に地域協議会を開催したいと考えている。日程調整の照会依頼をさせていただいたので、期日までに回答をお願いしたい。

続いて、和田区地域活動支援事業に関する意見の提出についてだが、改善すべき点がある場合には、11月21日(木)正午までに事務局へ提出用シートを出してもらいたい。今年度の募集要項、審査採択の基本的なルール、審査・採点シートの

様式を添付させてもらっているので参考にしてほしい。また一緒に添付した資料として「地域協議会による再度の見直し」状況をご覧いただきたい。これは、昨年度、自治・地域振興課から各地域協議会に地域活動支援事業の見直しについて依頼があり協議したと思うが、28地域協議会の見直し状況をまとめた表になる。分からない点、気になる点があったら遠慮なく事務局まで連絡をいただきたい。

・当日配布資料

地域協議会の開催に係る日程調整について

和田区地域活動支援事業に関する意見の提出について（依頼）

「地域協議会による再度の見直し」状況（自治・地域振興課）

ウィズじょうえつからのおたより（上越市男女共同参画推進センター）

地域教育往来55号（上越地域学校教育支援センター）

【水澤会長】

事務局の説明について、質疑を求めるがなし。

【土屋委員】

和田地区公民館活動の一環で、「元気の出るふるさと講座」受講生による「和田の歴史MAP」を作成した。本日委員にも配布したので参考にしてもらいたい。

【水澤会長】

今ほど、土屋委員からマップをいただいたので活用いただきたい。

・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課 南部まちづくりセンター

TEL : 025-522-8831（直通）

E-mail : nanbu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせて御覧ください。